

研修No. 7 7

2022 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 4月 14日
研究・研修課題名	2022年度 小児血液腫瘍医療・同種造血細胞移植後フォローアップに強いメディカルスタッフ育成のための研修
研究・研修組織名(所属)	島根大学・小児の移植後に強い看護実践プロジェクト
研究・研修責任者名(所属)	永田 里佳 (C病棟6階)
研究・研修実施者名(所属)	神門 隼輔、竹下 耕平、北山 萌、河村 真帆、板垣 美沙 (C病棟6階)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input checked="" type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(資格取得に向けた学会への参加)
該当者名(所属)	神門 隼輔、竹下 耕平、北山 萌、河村 真帆、板垣 美沙 (C病棟 6階)
学会名(会期・場所)、認定名等	日本造血・免疫細胞療法学学会総会 (5/12~14・オンライン参加) 日本小児がん看護学会学術集会 (11/25~11/27・オンライン参加)
演題名・認証交付元等	2021 年度 同種造血細胞移植後フォローアップのための看護師研修会・一般財団法人日本造血・免疫細胞療法学会
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input checked="" type="checkbox"/> 加算有 () <input type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**① 目的**

小児がん領域に強いメディカルスタッフを育成し、患者家族へ質の高い看護が提供できる土台を作る。また、LTFU の資格を取得し、患者が安心して日常生活を送ることができるよう、専門的知識で長期フォローを実践する。

② 方法

研修・学会への参加

③ 成果

当院は島根県唯一のがん診療連携拠点病院であるとともに、小児がん連携病院である。また、島根県内の造血幹細胞移植推進地域拠点病院は当院のみであり、小児の造血幹細胞移植を実施しているのは当院のみである。

小児がんの症例は非常に少なく希少がんである。研修会へ参加し、全国の症例や最新の知識を得ることは医療の質を高めることにつながる。当院小児科病棟には、小児がんに関連した専門的知識を持つメディカルスタッフが少ない現状がある。そのため、小児がんに関し強いメディカルスタッフを育成し、質の高い医療を提供する土台を作ることは当院の役割において責務であると考え。また、現在小児科外来では、造血幹細胞移植を受けられた患者さんを外来でフォローしている。造血幹細胞移植後は様々な面での回復の経過が長期であるため、入院から外来通院移行後に継続的に支援する体制があることは、患者・家族が安心して移植に臨むためにも重要である。GVHD などの様々な移植後合併症や感染症のリスクを考慮したモニタリングを行い、それらに早期に対応し、日常生活だけでなく学校などの社会生活への復帰をスムーズに進め、患者・家族の QOL を高めるため

(様式1)

の長期フォローアップが求められる。そこで外来での移植後長期フォローアップは重要なことであり、専門的知識を持って適切に関わることが求められる。平成24年度診療報酬改訂で「造血幹細胞移植後患者指導管理料、1回300点」が新設され、LTFU外来を開設しているほとんどの施設が「造血幹細胞移植後患者指導管理料」を算定している。当院の移植後の患者は1月に約8名来院される。300点×8名=2400点が算定できる。

当院もLTFU外来開設に向けて、LTFUの資格更新、同種造血幹細胞移植後フォローアップのための看護師研修会の参加や資格取得の前段階としての研修へ参加した。また、日本造血・免疫療法細胞療法学会総会や小児がん看護学会学術集に参加し、他施設の長期フォローアップの介入・指導方法、小児がん看護の最新情報を入手し、病棟・外来全体の知識の底上げに活用。現在、外来開設に向けた準備を進めるため、来年度のLTFU資格取得者の増員を図り、体制作りの調整を行い開設に向けての準備を進めている。